

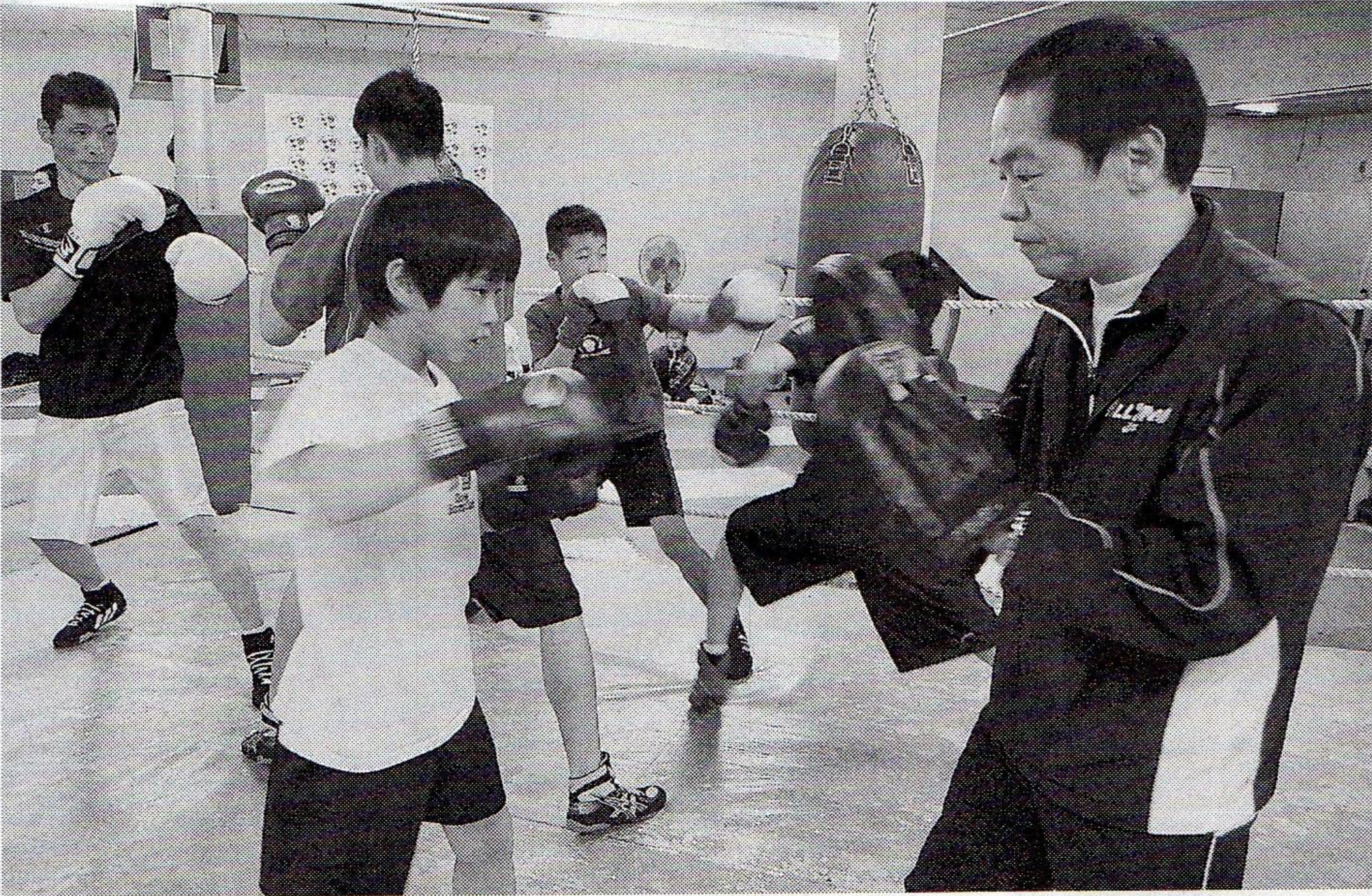
フリースクール再出発

海田 ボクシングで子どもも育成

昨年未立ち退き
空き店舗改装

自主練再開に励まされ

ボクシングを通し、子どもらの心身の育成を図るNPO法人「フリースクール・グロービー」が、広島市安芸区から海田町にスクールを移し、再出発した。6年間、活動の拠点としていた安芸区の建物の取り壊しで、解散も検討したが、生徒たちの思いに支えられ、再開にこぎつけた。代表理事の丸亀恭敬さん(46)は「子どもたちが活躍するきっかけを与えたい」と意気込んでいる。



自ら子どもたちを指導する丸亀さん(手前右)(海田町で)

元アマボクサーで、府中町でボクシング教室を運営していた丸亀さんが、2004年に設立。非行や不登校、ひきこもりを抱える保護者らから相談を持ちかけられることが多くなり、ボクシングに加え、元中学教諭らによる勉強のサポートやいじめなどの相談も行うフリースクールとして活動を続けてきた。当初、数人だった生徒は5歳から6歳までの約60人に増えた。

しかし、JR海田市駅前の開発に伴い、スーパー跡の建物が駐車場に整備されることになって立ち退きを迫られ、昨年12月下旬に閉鎖。リングなどの移転や改装費用の約200万円がそろわずに活動を停止した。解散を検討する中、一部

の生徒は近くの公園で自主的にボクシングの練習を再開した。「スクールをまた開いてほしい。待っている」と励まされた丸亀さんは、費用の工面に奔走、ボクシング仲間から資金を借り、海田町の空き店舗を改装

し、3月から活動を始めた。2年前から通っている広島市立向洋新町小6年の佐々木龍治君(11)は「早くリングの上に立ちたかったのでうれしい。もっと上手になつて自信をつけたい」と話す。

丸亀さんは「ボクシングに限らず、それぞれが目標を見つけ、自信をつけるきっかけをスクールで提供したい。今後成長を間近で感じ続けられるよう活動を続けたい」と話している。

知事、台湾でトツプセールス

きょうから3日間 観光客誘致へ企業回る

湯崎知事は20日から3日間の日程で台湾を訪問し、航空や海運、旅行会社に向けて自ら広島を売り込む「トツプセールス」を行う。

「海の道1兆円構想」の実現に先駆けて、台湾からの観光客を誘致したい考え。湯崎知事は「観光プロモーター」

ションは地道な活動が必要。瀬戸内海への関心を高めていきたい」と話している。

中華航空など航空、海運会社を訪問して、広島空港や広島港の利用や増便を呼びかける。さらに台湾の主要な旅行会社12社を集めて、観光スポットなど広島の魅力を紹介し、旅行商品の開発を依頼する。

福山市鞆町の鞆の浦の埋め立て・架橋事業で、県が計画する住民協議会の開催が遅れていることに関連

に開くことを目標としている。湯崎知事は、開催が遅れている理由の一つとして、架橋を進めてきた県が協議会を開くことに、反対、推進

瀬戸内沿岸で、年間の観光消費額1兆円を目指す

同市の羽田皓市長は、協議会がなかなか開かれないことについて、「鞆のまち

敬遠されて生産が落ち込んだ 年から増産を呼びかけた。 県

同果実連広島支所の河村博